はりまの旬な企業　社長インタビュー

今、播磨で飛躍を続ける注目の企業に訪問。本誌代表が対談を通じて、過去、現在、未来、そして社長の思いを伝えるシリーズ第十六回目。

vol.16

「おいしいらーめん八角」といえば、本誌読者で知らない人はいないであろう、地域に根付いたラーメン専門店。ほかに「昭和お好み焼劇場うまいもん横丁」、「大衆食堂　めし炊き名人ばっば屋」、「浪花名物たこの壺」を店舗展開し、兵庫県下に36店舗を構える。父親の代から受け継ぎ、地域密着展開をおこなう大西氏に経営の極意などをうかがった。

高原　先日の11月28日に、うまいもん横丁の明石藤江店がオープンしましたね。おめでとうございます！当日は大変なにぎわいでしたが、年明け早々には明石市に初出店となる、らーめん八角の明石藤江店がオープンするそうですね。県内を車で走っていても、あちらこちらで八角グループの店舗を見かけます。

大西　どうもありがとうございます！おかげさまで無事にオープンを迎えることができました。何店舗展開しようとも、やっぱり初日は心配が尽きないですね。新規開店の際は必ずプレオープン日をもうけて、すべての面で課題がないかチェックをしています。お客様の叱咤激励と従業員の頑張りがあって、ここまで事業を拡大してこられたと感謝の気持ちです。

高原　元々は先代のお父様が1972年に始めた喫茶店が、事業の始まりだと聞いています。忙しく働くご両親の姿は、大西少年の目にはどのように映っていましたか。

大西　働く大人の姿が格好良く見えて憧れの存在でしたね。子どもの頃から飲食の仕事に興味があって、早く働きたいと思っていました。高校生の頃、父が喫茶店のほかに経営していた居酒屋でアルバイトをしていましたが、学校に通う時間すらもったいなく感じて、自我を押し通して中退しました。10代で居酒屋の店長を任されることになったものの、そんな若造に年上のスタッフがついてくるわけもなく、めちゃくちゃ鍛まれましたし、孤独でした。でも、そんな経験が後々、店長を育成するプロセスで役立ったと思います。

高原　若くから失敗や苦労の連続だったからこそ、相手の立場にたって助言ができるのでしょうね。現代は昔と比べて若い世代の社員教育が難しいという言葉をよく聞きます。大西さんはどのように感じられますか。

大西　昔でいう当たり前が、現代は当たり前じゃない。そこは自分にもよく言い聞かせています。いつの時代でも若い世代は、やり玉に挙げられがちですが、その時代にあわせた伝え方や教育方法を考えていくのが、上の世代の役割だと思っています。グループ直営の従業員数は約400名ですが、画一的に叱ることなしに言っても伝わらないのは当然でしょう。指導がいきわたっていないと感じたら、相手の立場にたって伝え方を変えてみる。そうやって双方が成長していくのが理想です。ただ、ひとつ嬉しいことといえば、近年は独立志向の人が少なくなってきているように思います。当社では店舗で経験を積んだスタッフが独立する際は、これまでのノウハウを活かした支援体制でバックアップします。しんどいこともちろんありますが、若い人たちには、飲食店で働くことの夢をもって持ってほしいですね。

らーめん八角創業当時の八角形の屋台

高原　FCで独立を果たし、順調に売り上げを伸ばしている経営者が、若い人の目標となれば素晴らしいですね。実際にお手本となる店舗もあるでしょうし、今後の八角グループ全体の拡大も楽しみです。ところでお店は、行けば何か面白いことがありそう、お得なことがあるかも、そんな気持ちにさせられる大胆な仕掛けを打ち出していますね。店舗によって違いますが、8の付く日は餃子が88円になる八角デーや、八角宝くじ、ラーメン以外のメニューがすべて88円になる年に一度の8月8日は、私も日が近づくとそわそわします（笑）。今後も期待していいのでしょうか。

大西　はい、期待してください（笑）。ご利用をいただいているすべてのお客様に、どうやったら喜んでいただけるか、また来たいと思ってもらえるか、常に思考をめぐらせています。サービス面もそうですが、主に関東圏にアンテナをはって、新メニューの開発にも取り組んでいます。県内でいち早く取り入れたらーめん八角の強みは、今は定番メニューとしてコンスタントに注文が入ります。また、うまいもん横丁では、構想に2年をかけた炭火焼肉たむらとのコラボメニュー「炭火焼肉たむらのお肉を使った牛タレ焼きそば」が遂に完成し、提供がスタートしています。ぜひ多くの方にお楽しみいただきたいですね。

高原　それはぜひ食べてみたいです！最後に今後の展望をお聞かせください。

大西　地域密着のスタイルを崩さずに、兵庫県内に店舗を増やしていきたいです。「兵庫県といえば、八角！」そう言っていただけるように認知度をさらに上げて、老舗の存在の確立を目指したいですね。

高原　私もファンであるおなじみの味が、もっと身近に食べられるようになればうれしい限りです。本日はありがとうございました。

Interviewer
まるはり出版元
株式会社プラトゥー
代表取締役
鳥原延曜

インタビューを終えて

最初の印象は想像がつかないほど気さくな大西さんの人柄、飲食店を営む者にとって最も大切なことを自然と教えてくれる方でした。今回の取材を通して、人材育成の難しさを改めて感じました。学生時代から友達も多く、その仲間や親、師匠や右腕的存在として経営、経営を取り巻く世界的な流れを知っている、人との付き合い方、活力の源になる大西ラインドの象徴にはないかと思う、やはり成長の源は仲間、家族、地域、飲食業への愛の強さではないだろうか。

高原延曜 記